

令和6年度

理 学 部

化学生物環境学科 環境科学コース

第3年次編入学者選抜学力試験問題

## 数 学

令和5年6月10日（土）

10：30～11：30

### 注 意

1. 解答は、問題ごとに、別添の解答用紙に書くこと。

解答用紙が不足した人は手をあげてその旨を試験監督者に告げ、必要枚数の解答用紙を受け取ること。なお、解答用紙を追加した場合は、解答用紙の上方に問題番号を書くこと。

2. 問題1と問題2は必ず両方共に解答すること。

3. 総 ペー ジ———3ページ

問題ページ———第2～3ページ

(第1ページは、白紙)

4. 試験終了後、この問題冊子と下書き用紙は持ち帰ること。

## 問題 1

問 1 以下の連立 1 次方程式の解を掃き出し法で求めよ。解が複数ある場合には、任意定数を用いて全ての解を表すものとする。

$$(a) \begin{pmatrix} 3 & -1 \\ 1 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}$$

$$(b) \begin{pmatrix} -3 & 2 & 6 \\ 4 & 0 & -4 \\ -5 & 2 & 8 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$$

問 2 以下の行列の行列式、全ての固有値、固有ベクトルを求めよ。固有ベクトルは行列の各固有値に対して 1 個求めるものとする。

$$(a) \begin{pmatrix} 2 & 3 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$$

$$(b) \begin{pmatrix} -5 & 2 & 6 \\ 4 & -2 & -4 \\ -5 & 2 & 6 \end{pmatrix}$$

問 3 ある生物の年齢分布の時間変化を考える。簡単のため雌雄の区別はなく、1 才以上の全ての個体が子を産むとする。

0 才の個体は翌年までに半分が死亡し、残り半分が翌年まで生存して 1 才となる。1 才の個体は翌年まで全てが生存して 2 才となる。2 才の個体は翌年までに全て死亡する。

1 才の個体は 4 個体の子を、2 才の個体は 6 個体の子をそれぞれ産む。

$t$  年後の 1 才の個体数を  $x(t)$ 、2 才の個体数を  $y(t)$  とする。

(a)  $t$  年後の各年齢の個体数と  $t+1$  年後の各年齢の個体数間の関係式

$$\begin{pmatrix} x(t+1) \\ y(t+1) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x(t) \\ y(t) \end{pmatrix}$$

をみたす行列  $\begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix}$  を求めよ。

(b) 最初の年に 1 才の個体が 1 個体、2 才の個体は存在しない、つまり

$$\begin{pmatrix} x(0) \\ y(0) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}$$

とする。翌年の年齢分布  $\begin{pmatrix} x(1) \\ y(1) \end{pmatrix}$  と 2 年後の年齢分布  $\begin{pmatrix} x(2) \\ y(2) \end{pmatrix}$  を求めよ。

(c) 最初の年の年齢分布が上の (b) と同じとき、 $t$  年後の年齢分布  $\begin{pmatrix} x(t) \\ y(t) \end{pmatrix}$  を求めよ。

## 問題2

問1 次の関数  $P(x)$  の導関数  $P'(x)$  を求めよ。さらに  $x = 0.4$  のとき、導関数の値を求めよ。

$$P(x) = -1 + x - x^2 + x^3 - x^4$$

問2 次の関数  $f(x)$  の導関数  $f'(x)$  と2次導関数  $f''(x)$  を求めよ。

$$f(x) = \sqrt{1 - x^2}$$

問3  $xy$  平面において、 $y = \sin 2x$  のグラフと  $x$  軸とで囲まれる部分の面積を、 $0 \leq x \leq \pi$  の範囲で求めよ。

問4 次の微分方程式の一般解を求めよ。さらに、 $x = 0$  のとき  $y = 0$  である場合、特解を求めよ。

$$\frac{dy}{dx} = e^{x+y}$$